

プラネタリーヘルスってなに？

ところで、あなたはキレイに耕された畠のまえにたっています。草いっぽん生えていない畠になにを植えようか。キュウリやトマトを育てたら雑草に肥料分をとられることもなく、おいしい野菜ができるだろう。これは普通の見方、考えて、ヒトは何千年も耕してきた。

ところが今、世界中で野菜や穀物にふくまれる栄養価が少なくなってきた。実は植物は、土のなかで微生物にデンプンをプレゼント、微生物は植物にビタミンやミネラルなど微量栄養素をお礼にかえすネットワークのなかで生きている。

耕することで微生物やミミズなどの生きものの生態系のネットワークをこわしてしまうと、肥料を与えて見た目はデブでも栄養価の乏しい野菜や穀物になってしまう。

“ミミズの農業改革”の著者、金子信博先生と栃木の國母農園の見学にいったとき、耕されてハダカになった畠をみて、これはヒトに例えるならヒフをはがされた状態で土壤生態学の観点からは草でおおいかぶせてあげないと、と話されていたことが印象に残っている。

ここかまどの畠を統括しているカスミさんにすすめられた、“土を育てる”という世界的ベストセラーブックのなかでくりかえし語られる、「小さな変化を生み出したいなら、やり方を変えればいい。大きな変化を生み出したいなら、見方を変えなければ。」

耕することで、くりかえし文明は滅びてきた。プラネタリーヘルスは見方を変えるキーワードです。